

健康・医療・介護・福祉ニュース

◆最新の健康・医療・介護・福祉などに関するニュースを集めて紹介します。

地域医療の架け橋に

3

奈良医療センター

これまで2回にわたって、脳神経の難病と認知症についてお話ししてきました。いずれも神経内科にて、専門的に診療している病気で、

ところで読者の皆さんは、「神経内科」という診療科についてご存じでしたでしょうか？「神経内科」というのは、脳の病気を内科的に診(み)る診療科です。従って、「パーキンソン病」や「アルツハイマー型認知症」などが対象となります。ただし、不安やうつ症状などのこころの病は専門外で、これらは主に心療内科や精神科が専門となります。

また「神経内科」では、脳以外にも、末梢神経(手足を走っている神経)や筋肉の病気も診ます。特に、国立病院機構奈良医療センター神経内科では、筋肉の難病である「筋ジストロフィー」を専門

「筋ジストロフィー」を専門に診療

国立病院機構奈良医療センター 松村 隆介
神経内科診療部長



松村 隆介
神経内科
診療部長

【略歴】平成元年、奈良県立医科大学卒業。同年、同神経内科講師、米国ソーク研究所研究員。同22年から現職。

患者の生活の質向上

的に診療しています。筋ジストロフィーという病気には様々(さまざま)なタイプがあるのですが、その中でも代表的なものに、「デュシェンヌ型筋ジストロフィー」と呼ばれるイメージがあると思えます。しかし、この鼻マスク式の人工呼吸器というものは、鼻にマスクをつけて、そこから肺に向けて空気を送り込むことで患者の呼吸を助けるもので、呼吸器を使わない時は簡単にはずすことができ、

に使われるイメージがあると思えます。しかし、この鼻マスク式の人工呼吸器というものは、鼻にマスクをつけて、そこから肺に向けて空気を送り込むことで患者の呼吸を助けるもので、呼吸器を使わない時は簡単にはずすことができ、

このように、筋ジストロフィーの患者にとって、単に症状の改善だけではなく、生活の質を向上させる有用な治療法なのです。なお、この鼻マスク式の人工呼吸器は、脳神経の難病や呼吸器内科の病気にも同様の効果があり、現在

最近、そのうちの一つの薬が欧州で使えるようになりました。現在も、他のタイプの遺伝子治療薬が欧米と日本で臨床試験されており、今後の進展が期待されるところで

ます。写真の通り、座った姿勢でも使えます。小型であることから持ち運びも可能で、車いすに乗せて外出、さらには旅行も出来ます。このように、筋ジストロフィーの患者にとって、単に症状の改善だけではなく、生活の質を向上させる有用な治療法なのです。なお、この鼻マスク式の人工呼吸器は、脳神経の難病や呼吸器内科の病気にも同様の効果があり、現在

「1」という病気があります。3〜4歳頃に歩き方がおかしいことで気づかれ、その後、徐々に全身の筋肉がやせて筋力が低下し、10歳頃には車いす生活となる難病です。筋力の低下は、手足だけではなく、呼吸をする筋肉にも及ぶため、呼吸がしにくくなります。それに対する治療法として、鼻マスク式の人工呼吸器(写真参照)を使う方法があります。



鼻マスク式人工呼吸器の使用例(写真は、アイ・エム・アイ株式会社提供)

当院神経内科では、多職種で、筋ジストロフィーの患者・家族に対し、医療面はもちろん福祉面も含めたサポート体制をつくっています。これまでご紹介した神経内科の病気についてご相談があれば、当院などの専門医療機関に受診していただければと思います。

掲載予定

次回6月22日付

独立行政法人
国立病院機構奈良医療センター
星田 徹院長
電話0742 (45) 4591